

《開催概要》

1. 日時 2025年12月12日（金） 午後3時から午後5時まで

2. 場所 愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3. 出席者（区分毎に五十音順、敬称略）

内田 俊宏 学校法人梅村学園 常任理事／中京大学経済学部 客員教授 【座長】
林 陽子 学校法人清光学園／岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 理事長
伊藤 雅則 愛知県商工会連合会 専務理事
岩原 明彦 愛知県経営者協会 専務理事
大槻 秀揮 一般社団法人中部経済連合会 審議役 事務局次長（平松委員代理）
加藤 明彦 愛知中小企業家同友会 相談役理事
加藤 英樹 愛知県商店街振興組合連合会 専務理事兼事務局長
佐々木 靖志 愛知県中小企業団体中央会 専務理事
中島 裕子 日本労働組合総連合会愛知県連合会 事務局長
坂東 俊幸 名古屋商工会議所 企画部長（内田委員代理）
石崎 正樹 トヨタ自動車株式会社総務部 涉外室長
福井 秀謙 株式会社サーラコーポレーション人事戦略部 部長
畔柳 雅宏 愛知県信用金庫協会 岡崎信用金庫副理事長
野原 強 一般社団法人名古屋銀行協会 専務理事
橋爪 優文 中部経済産業局 総務企画部長
林 幹雄 愛知労働局 職業安定部長
犬塚 晴久 愛知県 経済産業局長
金山 敏和 愛知県 労働局長
多田 龍介 愛知県 観光コンベンション局長

《議事次第》

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

あいち経済労働ビジョン 2026-2030（最終案）について

4. その他

5. 閉会

【開会あいさつ】

○愛知県経済産業局長 犬塚 晴久

これまで3回にわたって皆様から様々なご意見をいただいた。先月からパブリック・コメントを実施し、また第3回の委員会でいただいた意見も踏まえ、本日最終案をお示しし、ご意見をいただくということでお願いをしたい。

現在12月議会が開会中であるが、今回、12月議会の質問で、このビジョンをテーマと

した質問があった。どんなビジョンになるんだというような質問であったが、私は、現在策定中のビジョンについては、表紙にも記載してあるが、イノベーションと多様性を通じた変革の加速、こういった理念のもと、2030年の愛知の姿を見据えて、これからさらに競争力を高めていくと、そんなビジョンにしたいというような答弁をした。また知事からは、地域の価値を世界と戦える競争力を変革していく、そんなことを目指すビジョンだというやや大所高所に立った答弁もさせていただいた。

本日は最後の委員会となるが、皆様から忌憚のないご意見をいただき、今月中に公表までできるように取り組んでいきたいと思うので、本日はよろしくお願ひしたい。

【座長あいさつ】

○内田座長

昨今、アメリカのトランプ関税の影響もある程度見通せるような状況になっており、円安の影響・効果もあって、本県への影響も限定的という状況になってきたが、日中関係が逆に悪化しており、そういった不確定要素・地政学リスクの他、おそらく来週日銀が利上げをすると思うが、金利ある世界でのインフレの基調や、人口減少、少子高齢化、産業構造の転換といった様々な問題の中で、今回のビジョンは非常に重要性が高いということで、委員の皆様方からたくさんの意見を頂戴していた。

今回は、ビジョン策定前の最後の段階、最終案であり、パブコメも終えていくつか修正もしていただいているが、皆様方からは、本ビジョンを推進していく上でのポイントなどを中心にご意見賜ればと考えている。

<議題：事務局説明>

- ・資料1～資料3、資料5について説明。

【各委員発言、座長応答】

○内田座長

- ・各委員からのご発言をお願いしたいと思うが、先ほども申し上げたとおり、今回がビジョンの策定前最後の委員会となるので、本ビジョンを推進していく上でのポイントや愛知県に対する期待などを中心にご意見・ご提言を頂戴いただければと思う。

○中部経済産業局 橋爪委員

- ・前回の委員会で外国人材についてコメントさせていただいたところ、目標数値などを再検討いただき、感謝する。
- ・このビジョン全体を通して、愛知県の現在の立ち位置から将来の見通しまで、非常に良くまとまっているなと感じる。政府の白書と引けを取らない非常に良い仕上がりになったと感じている。
- ・一方で、私見ではあるが、各々の取組について個別で見ると、優先度や重要度が読み取りづらい点もあるのではないかと感じる。本当は愛知県庁として優先的に取り組みたいこ

など濃淡があるのではないか。これを優先的に取り組む、これは優先順位を劣後とせざるを得ないなど濃淡が当然あるはず。言わされたことをすべてやりますというスタンスであるが、本当は愛知県庁として、優先的に取り組みたいことはこれだというものを、より前面に出しても良いのではないかと感じている。

- ・私がこの地域に着任して2年経つが、その間にSTATION Aiが立ち上がり、愛知県庁は今後5年間でスタートアップ支援に力を入れていくのではないかと感じている。5年後に次のビジョン策定の話が出てくると思うので、そのような点も新たなビジョンに盛り込んだ仕上がりになることを期待している。

○内田座長

- ・ビジョン全体についてはかなりまとまったという評価をいただきつつも、施策のウェイトについては、もう少しメリハリの付いたウェイト付けが必要でないかというご意見であった。
- ・やはり全体としては広く網羅する必要があるかと思うが、実際の各部局の施策の方向性・展開のスピードなどについては、またそれぞれ考えていただき、濃淡をつけていただくということでお願いしたい。

○愛知労働局 林委員

- ・本ビジョンの労働の分野について、コメントをさせていただく。
- ・まず、このビジョンの中で労働の箇所は多様な人材の活躍や人材の育成について、いろいろと施策を取りまとめていただいている。これについては、国が進めている方向とも合致するものは網羅的に盛り込んでいただいているのかなと思っており、大変心強く思っているところである。
- ・また、このビジョン全体の中で人材確保が課題であることが至るところに書いてあり、これについては、ハローワークを傘下に持っている労働局としても地域に貢献をして参りたいと思っている。具体的には、ハローワークが県内18ヶ所にあるが、拠点を有するというメリットを生かし、地域の企業のことは一番ハローワークが詳しいと言つていただけるように、専門性の強化・体制の強化に取り組んで参りたいと考えている。
- ・こうした取り組みを通じて、人材確保の分野でも、愛知県庁と連携をして、これからも貢献して参りたいと思っているので、お願いしたい。

○内田座長

- ・労働力に関する記述について、重点的に記載したというところを評価いただいた。
- ・愛知県としてもやはり人手不足であり、業種によってはもう既に顕在化しており、将来的にはさらに厳しくなることが想定されるので、その辺りも重点施策としてやっていただきたいと思う。

○名古屋銀行協会 野原委員

- ・前回色々とコメントさせていただき、反映していただいたので、特に追加で申し上げることはないが、全体として方向性が明確であり、細かいところにもよく配慮されたビジョンに仕上がっているのではないかと思っている。
- ・今後についてということで、目指すべき姿の集約的な数値目標として、県民所得の成長率を名目で4.1%、実質で1.8%と置いている。こうした目標値を掲げたことの意味について、少し私自身の考えているところをお話ししたいと思う。
- ・私自身は、今回このような数字を置いてあるのに2つの意味があると思っている。1つ目は、現在の日本の経済の全体の潜在成長率は大体0.5%程度と言われているので、1.8%というのはそれなりに強い数字を置いているということであり、これはまさに愛知県が引き続き日本経済をリードしていくということに他ならないということだと思う。その点はしっかり意識し、ぜひそういう気概を持ってやっていただきたいということが1つ目である。
- ・一方で、今後はさすがに愛知県も労働力人口が減少してくるということになってきて、このビジョンの5ページでも予測の数字が載っているが、労働参加率が変わらない場合、2030年は414万9,000人ということで、5年間で6万6,000人ほど減っていくということである。これを年率で見てみると、0.3%減少していくということになるので、そのマイナスを打ち返して、1.8%をずっと維持していくためには、2%以上の資本の蓄積と生産性の向上をしていかなくてはいけないということになる。これは、今の日本の経済からするとなかなか意欲的な目標になっているのではないかなどと思うので、先ほどの事務局の説明で危機意識を書き込みましたという話もあったが、まさにこのビジョンで掲げている、イノベーションによって新しい価値を生み出すとかあるいはAIの活用によって色んな仕事の仕方を変えて生産性を上げていくといった取組を本当に総動員していかなくてはいけないので、ぜひしっかりと進めていっていただければと思う。
- ・金融機関としても、設備投資への資金供給はもちろんあるが、スタートアップの支援などで引き続き金融面での支援をしっかりと県と連携しながらやって参りたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

○内田座長

- ・県民所得の成長率の数値目標をかなり意欲的・高めに設定したということを評価いただき、本県への経済の牽引役としての期待も非常に大きいというご意見であった。
- ・生産性の向上が不可欠というのはもう間違いない方向性だと思うが、AIなども含めたイノベーションの重要性というところもご意見いただいたので、STATION Aiも含めて、そうした方向性で支援していただきたいと思う。

○トヨタ自動車 石崎委員

- ・全体として、この先5年の進むべきビジョンについて、委員皆様の様々なご意見を取り込んでいただき、大変良い内容になっていると感じている。
- ・その上で、本ビジョンを推進していく上でのポイントについてお話をさせていただく

と、今回のあいち経済労働ビジョンの計画期間が2026年から2030年ということで、大変長いスパンのビジョンとなっているということであり、当然ながら途中で状況が変わる、想定しない事象・事案が起こることが考えられる。場合によっては、今回策定した目指すべき姿や実現に向けた指標も、当然ながら見直しや追加・削除なども必要があるのかなということを思っている。

- ・弊社の事例で、少し関係するところがあったので紹介させていただきたいと思う。中間決算が先月の上旬に行われたが、その際には、ヒト・モノ・カネの構えを見直し、無駄のない正味作業を追求、生産性を向上し、損益分岐台数を改善していくという取組が必要であると説明している。言うなれば少し引き締めのトーンで説明をしていたが、実は1年前の中間決算の時には、全くこれとは異なったトーンの説明であった。具体的には、足場固めというのをキーワードに、稼ぐ力を維持しながら、人への投資・成長投資を強化・加速していくというような説明をしていた。このわずか1年の間で、当然であるが、人への投資・未来の投資を拡大した結果として損益分岐台数が大幅に上昇したといった中で、1年前には想定しなかった米国政府の関税の問題があり、最優先で取り組むべき課題が1年前と今では結構変わってしまったというところであるので、そういう変化を経営の中で取り込み、社内外に発するメッセージを変えていったというところである。
- ・来年度からビジョンのフォローアップが行われる中では、先ほどご説明いただいたとおり進捗や指標の確認があるかと思うが、そういう状況の変化が今後想定されるということを確認しながら、ビジョンを推進していただけたらと思っている。

○内田座長

- ・トヨタ自動車は、アメリカでも中国でも、色々な影響がある中でハイブリッドを中心にシェアを拡大しており、本県にとっても非常に心強い存在であるが、トヨタ自動車でさえも先がなかなか見通しにくい状況ということで、本県もそうした大手メーカーと協力しながら、競争力強化していく方向性に期待したいと思う。

○サーラコーポレーション 福井委員

- ・本ビジョンの取りまとめについて、膨大な資料を取りまとめていただくとともに、前回の委員会の中で申し上げた内容についても検討・反映いただき、感謝する。
- ・私個人としては、このビジョンを見たすべての県民の皆様が、愛知県のこの先は明るいという希望を持てるビジョンになるといいと思っている。先程、色んな施策でこのビジョンをしっかりと浸透させていくという発言があったが、しっかりと企業・事業者、県民、すべての方に理解していただくことがまず大事だと思っている。
- ・この後、ビジョンを実行していくところが大変難しいと考えている。
- ・産官学のそれぞれが、役割を認識して自立的に動いていくか、もしくは産官学をどのように連携して動かしていくか、これが一番大事だろうと認識している。
- ・特に企業側としては、オープンイノベーションという表現があるが、これらを通して、

新しい技術・新しい付加価値に対して投資をしていく、人への投資ということで賃上げ・リスクリギング、あとはサプライチェーン全体の適正取引・価格転嫁といったものも自立的に行っていくということを再認識する必要があると思っており、行政の皆様にはそういう環境整備であるとか、呼び水になるような取組をしっかりと行っていただきたいと思っている。

- ・教育機関の皆様についても、産官学連携しながら、いわゆる STEAM 教育とか、起業家の教育とか、実際にこの地域に必要な産業ニーズに対応した人材をどのように育成していくか、これから我々企業側も含めてしっかりと考えていく必要がある。
- ・今後、愛知県に期待することということで、今回の指標は、やったことではなく、その後の変化に着目している。色々な施策をした後に実際にどんな変化が起きているのかというところをこの後のフォローアップ会議等を通して確認し、トヨタ自動車の石崎委員がおっしゃったように、想定と違うようであれば、1度また考え直して新たな施策を作っていくということも必要だろうと思っている。
- ・また、ビジョン全体では、産業・労働・観光・教育等非常に幅広い領域の内容になっており、企業内においてもそうであるが、それぞれ管掌の領域がある中、それぞれでやっていてもシナジーは生まれないとと思っている。各組織の中でも横の連携をしっかりと持ち、最終的な目的を共有しながら進んでいくことが必要かと思う。

○内田座長

- ・今回のビジョンを県民、県内企業の経営者などが見て、県に期待が持てるようなビジョンになると良いということであるが、この辺りについては、今回かなり危機感や不確実性について入れていただいているので、県としてきちんと将来展望、客観的に分析をしており、それに対する対策も強み、弱みを把握した上でやっているという方向性が見えるといいのかなと思う。
- ・それから、フォローアップも非常に重要だということであるが、これは来年以降進めていただきたいと思う。

○愛知県商工会連合会 伊藤委員

- ・ビジョンの最終案ということで、本当に不確実性の高い経済の中で、進むべき方向性が良くまとめられているのかなと感じているところである。
- ・我々の立場からすると、やはり中小・小規模事業者をどう育成していくかというのが一番重要な部分であり、ご存知のように商工業者の数のうち 99% が中小・小規模事業者であるということは、いわゆる産業を下支えしているのはあくまでそうした中小・小規模事業者ということである。こうした中で、中小・小規模企業の稼ぐ力の向上などの部分でこれらの取組をしっかりと明記していただいたということは、我々にとっても非常にありがたいなと思っているところである。
- ・ただ、こういった中で一番肝心なのは、事業者・経営者がいかに意識改革をするか、意識を変えて取り組んでいくかというところであり、今後重要なかと思っている。稼

ぐ力を向上させるにしても、やはり自己改革というか、自分の会社をどう進めるべきかというか、我々支援機関や専門家の言うこと聞くのではなくて、自らがそういうことを思うような取組・支援を側面的にしていくのが重要かと思っているので、我々支援機関としては、伴走型支援をしていければいいかなと思っているところである。

- ・また、最近どんどん高齢化社会が進む中で倒産という話が出てきており、企業がなくなるということは下支えするところがなくなる、雇用もなくなるということなので、スタートアップという捉えもあるが、やはり我々としては創業・開業という地道なところの支援をしっかりしながら、地域活性化や地域の疲弊を止めるような取組も、今後しっかりしていかないといけないのかなという気がしているところである。
- ・そういった意味でいくと、やはり支援機関、それから支援機関同士の連携が重要なので、県の施策の中で我々に対する支援施策といったものを充実・強化していただければありがたいという話である。
- ・もう1点、やはり人材の確保・育成、従業員が不足している面もあるので、人材確保・人手不足対策といったところもこれからしっかりと何らかの形で取り組んでいただければありがたいと思っているのでお願いしたい。

○内田座長

- ・冒頭で企業数の99.7%が中小企業という話をいただいた。付加価値額の面で言うと少し低くなるが、やはり付加価値額に表れない重要な役割というものはあるので、そうした企業の生産性向上に向けた、特に経営者の意欲の向上にも期待したいというご提言・ご意見をいただいた。
- ・支援機関の重要性も増していくと思うので引き続きお願いしたい。

○愛知県経営者協会 岩原委員

- ・私からは感想2点とこれからの期待が2点、最後に少し質問をしたいと思う。
- ・まず、感想として、先ほどトヨタ自動車の石崎委員がおっしゃられたが、本当に環境変化が激しく、1年後はどうなっているか分からぬ中で、5年という少し先を見ながら、ビジョンとか重点施策を整理するのは大変意味があると思っている。特に、2章の現状分析というところは、データや事象などのエビデンスがきちんと整理され、その中から将来を予測していく形であり、このデータについては大変参考となった。私ども経営者協会も、人事・労務の分野を中心に活動しているが、そういった人に関するデータが非常に分かりやすく、ポイントを突いてまとめられているなと思った。
- ・2つ目の感想であるが、目標がきちんと設計されているということで、どうしてもこういう施策は目標がないとやりっ放しになってしまふと思うので、個別の目標と全体の目標が、関係性も含めて最後のロジックツリーできちんと整理されているのは素晴らしいなと思った。
- ・それから期待であるが、目標を設定されているが、やはり環境が変わっていくと目標も場合によっては変えなくてはいけないということも十分あると思うので、施策のフォロ

- 一アップと、場合によっては目標も柔軟に見直していくことも必要かなと思っている。
- 期待の2つ目は、1ページのところで、全体の一番上位があいちビジョン2030であり、今回のビジョンの右横に各分野の計画が書いてあるが、たまたま私今年の4月から、あいちの教育ビジョン2030の策定にも関わらせていただき、大変有意義な機会であった。教育委員会の方や大学・高校・中学校・小学校の先生方とトータルで7時間ぐらいフレディスカッションし、そのアウトプットも見たが、結構このビジョンとの関係性もあるので、ここでは相互に連携と書いてあるが、この経済労働ビジョンが他のビジョンと関係し合いながら進めていただくということをぜひお願ひをしたいと思う。
 - 最後に質問であるが、中小企業のデータが非常に参考になったが、22ページの上のところで中小企業の従業員比率が書いてあり、東京が低いのは分かっていたが、他に愛知県と大阪が書いてある。愛知県は72%と書いてあるが、例えば、近隣の岐阜とか三重とか地方の数字は愛知県の72%と比べてどのような感じかというのももし分かればご教示いただきたい。愛知県が特に中小企業の従業員比率が高いのか、地方から見れば低いのかといったことを知りたいと思うのでお願ひをしたい。

○内田座長

- まず、環境変化が激しい中でのビジョンの重要性というところを評価いただいた。特に第2章のデータ分析、数値目標の設定の辺りも非常に良いという評価をいただいたが、一方で環境変化が非常に著しいということで、柔軟な見直しをかけていく必要性があるというご指摘をいただいた。
- 最後に、中小企業のグラフのところで、おそらく愛知県が高いというより東京が低いという感じかなとは思うが、もし事務局で何か傾向を把握されているのであれば、コメントいただきたい。もし無いようであれば、データが分かれれば、また追って委員の皆さんにもフィードバックをお願いしたい。

○事務局

- 今すぐはデータがないため、後ほどフィードバックさせていただく。

○内田委員

- 今、データのグラフ・図表の話が出たので、私からも1点申し上げる。今回、ビジュアルでパッと見て分かるようになっており、最近のZ世代の大学生はテキスト文書をあまり見ないというか、グラフで見て意味がわからないと諦めるぐらいの勢いなので、非常に良かったと思う。一方でカラーリングについて、パステルカラーですごく優しくていが、目立って欲しいグラフとかもそうなっており、例えば中国とかは赤っぽいほうがありがたいなとか思ったり、東海というところもちょっと目立たないグレーやアイボリーとなっている。何となくイメージに近い色だとありがたいかなという気はしており、特に意図が無ければ色のセレクトを少し変えてもいいのかなと。アメリカが青色だとイメージに近い方が、パッと見た感じで感覚的に分かるかなと思った。また、目立って

欲しいところはカラーリングで赤にしたりして欲しい。

○中部経済連合会 大槻様（平松委員代理）

- ・まず、この最終案については大変上手に取りまとめられていると思う。コラムも豊富に入っており本当に分かりやすい。先ほど、座長から学生の話があったが、この地域の産業を知つてもらい将来を描くことにも使えると思った。資料5のとおり、今後の取組の中で浸透を図っていくということなので、上手くPRしていけば、人口流出を止めるようなことにもつながるのではないかと思う。
- ・若者という意味では、最近、以前に比べると内向きというか、自己完結志向や国内志向が強いと聞いている。来年のアジア・アジアパラ競技大会、さらにその翌年のアジア開発銀行の年次総会、さらにはその先の技能五輪国際大会と続くので、こういった国際的なイベントを上手く生かして、経済・労働分野に限らず若者の意識がグローバルに向くような人材育成の仕掛けのようなところもぜひ愛知県にはリードしていただけるとありがたい。
- ・確認ではあるが、37ページのコラムについてである。下段の方にTechGALA Japanを書いていただき、そこにCentral Japan Ecosystem Consortiumという、内閣府からグローバル拠点として認定されている組織のことが書いてある。ここでは「等」と書いてあるのでどう読むかだとは思うが、今年度エリアが拡大して、岐阜・三重・静岡の3県が追加になっているので、他県への配慮という意味で、正確性を期していただけたとありがたい。

○内田座長

- ・最後のTechGALA Japanのところは、隣県の新しく入ったところも入れていただいた方が良いかなと思う。
- ・人材育成に関しても、若者・Z世代に対して、ビジュアルでの今回のビジョンというのは非常に有効であるというご指摘と、内向き志向が高い若者や首都圏・東京に流出している世代について、アジア・アジアパラ競技大会などの開催を控えており、グローバル人材は他県よりも非常に重要かつ必要な県であるので、人材育成に関しても期待したいというエールをいただいた。

○愛知中小企業家同友会 加藤委員

- ・まず、非常に充実した内容で仕上がったことに感謝申し上げたいと思う。
- ・特に、ビジョンの21ページに中小企業のことをしっかり書いていただいた。従業員比率は72%、付加価値の割合も59.3%ということを踏まえ、最後の行に書いてあるように、愛知県の地域経済における中小企業の重要度は相対的に高いという評価をしていただき、ありがたいと思っている。
- ・また、44ページ以降に人材育成についてしっかり書かれている。愛知県商工会連合会の伊藤委員もおっしゃったが、愛知中小企業家同友会としては、創立以来経営者そのもの

の人材育成を会の目的の一つに掲げてきた。それは今も非常に力入れている。特に「人間を人間として尊重する」ことを経営における考え方の基礎に置き、そのもとに社員一人ひとりが自分の役割を自覚でき、仕事を通じてより良い人生を築くことができるよう、①経営理念、経営ビジョン、経営方針・戦略、経営計画が一気通貫のものとなつた経営指針の成文化と実践・確立、②労使が共に学び合い育ち合う社員教育、③採用を一体のものとした人を生かす経営に取り組み続けている。これを手段に位置付け、目的として人が生きる社会を作りたい。そのためにも、人間尊重の考え方へ貫かれた同友会らしい黒字企業を1社でも増やしていくという活動を推進しているところである。愛知県は他の地方との比較ではまだ恵まれている方だと思うが、やはりそれぞれの地域ごとに自立した地域経済の確立に向けて、産学官金を始めとした地域のプレイヤーが連携してしっかりとやっていくことが大事ではないか。

- ・各目標値について、時代の変化が激しいので途中で目標値も変えなくてはいけないという話もあったが、まずは設定した目標値に近づくように、愛知中小企業家同友会としても、また一人の愛知県で企業経営をする経営者としてもしっかりとやっていきたいと思っている。
- ・本当に立派なビジョンができたので、我々もしっかりとこれを受けとめて、経営に生かしていきたい。

○内田座長

- ・愛知中小企業家同友会としても、全面的にバックアップいただけるという大変心強いご発言であった。
- ・22ページのところでの中小企業の付加価値額59.3%で、約6割であるが、全国で見た場合は5割未満だと思う。確かに本県は非常に中小企業のウェイトは高いという感じがするので、そういうところも含めて、中小企業を重視していくという観点は本県としても変わらないと思う。

○愛知県商店街振興組合連合会 加藤委員

- ・第3回の委員会の素案が出来上がったときから策定に関わらせていただいたが、最終的な案を見させていただき、各分野バランスの取れた素晴らしい内容になったのではないかと率直に思っている。
- ・昨今、GX・DXの進展が著しく、また、人口減少や少子高齢化が大変加速しているという大きな変革の中で、大変難しいリバイス作業であったと思う。そのような中でこのように素晴らしい内容を作っていただいた。
- ・今後、このビジョンをしっかりと具現化するための具体的な施策を着実に推進していただき、モノづくり愛知において、高付加価値なモノづくり、革新的なサービスを次から次へとさらに創出していっていただくよう心から期待をしたい。
- ・1つ、要望であるが、生み出された新しい製品・商品をしっかりと世の中に普及させる、新しいサービスをしっかりと社会実装させていくということを考えると、やはり重

要になってくるのは商業だと思う。

- ・どんなに素晴らしい商品であっても、やはり商業の力がなければ世の中に知らしめていくこともできないので、引き続き商業にしっかりと光を当てていただき、当地はモノづくり工業県であるが、商業・工業を大きな両輪としていただき、商工業バランスのとれた産業振興を引き続き推進していただくようお願いする。

○内田座長

- ・商業・商店街の重要性についてお話しいただいた。本県はインバウンドの取組も東京・大阪に比べると遅れている面があるが、そのあたりは県が中心になってかなり巻き返しを図っているので、そういうた商業・商店街の重要性というところもご指摘のとおりかと思う。

○愛知県中小企業団体中央会 佐々木委員

- ・まずは、このビジョンについて、これまでの委員会の意見等をしっかりとまとめられており、分かりやすくできたということで感謝申し上げたい。
- ・中小・小規模事業者の稼ぐ力の向上に関して、モノづくり系の企業の役員の方から言われたが、今、愛知県の製造品出荷額等がどんどん右肩上がりで成長しているが、やはり先が見通せない、おそらくこのままこの先も行けないだろうという中で、今まで中小企業は大手の発注企業の言うとおりにやっていればよかったが、これからは自らの強みといったものをしっかりと生かして、自分から新しい提案をして仕事を取りに行くということをやらないといけないということで、特に経営者の意識改革が重要なんだということであった。そうした経営者の意識改革も含め、稼ぐ力の向上というのを打ち出されたことは本当に評価できることではないかと思っている。
- ・ただ、今後ビジョンを進めるにあたって、やはりビジョンは作るのが目的ではなく、目指すべき姿を実現していくことが大事だと思っている。そうした中で、我々支援機関の役割として、このビジョンを多くの方に、特に会員組合の経営者の方に知っていただくということを我々も力を入れてやっていきたいと思っている。
- ・そうした中で2点ほどお願いであるが、まず1点はやはり見てもらう工夫というのが大事だと思っている。このビジョンを見ると90ページぐらいあるが、経営者の方がこの90ページのものを見通せるかというとなかなか難しいと思うので、資料5で概要版というものを作ると書いてあるが、出来れば見やすくキャッチーなもので端的にまとめたものを作っていただくと、私どもも広報しやすいと思うので、よろしくお願いをしたい。
- ・2点目については、前回の委員会でも申し上げ、事務局からもコメントをいただいたが、このビジョンの目指すべき姿の実現のためにチャレンジしていくためには、やはり行政の支援策といったものが目に見えて分かるとなお進めやすいことがあるので、なかなか県としての負担も増えるのかもしれないが、出来れば新年度の事業が固まった段階で、このビジョンの大項目程度でもいいが、個別の施策・事業をまとめていただくと、それをお伝えすることで、毎年度、毎年度このビジョンを繰り返し見てもらう

というような契機にもなるので、そういったことをお願いできたらと思っている。

○内田座長

- 稼ぐ力の向上という点について非常に重要性が高いというご指摘と、目指すべき姿の実現が重要ということで、この辺りは県も認識していると思うが、周知徹底、支援策等の見える化というあたりも今後やっていただくということをお願いしたい。
- 概要版についても、なるべく分かりやすくというご指摘をいただいたので、作成に向けてはこうした視点も盛り込んでいただければと思う。

○日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島委員

- 多様な人材確保・活躍支援のところを中心に、私が申し上げた意見についても十分にご検討いただき、分かりやすくまとめていただいたことに対し、事務局に感謝を申し上げたいと思う。
- この新しいビジョンのポイントは、やはり人材の確保だと私は思っている。愛知で働いてくれる人を増やしていく、確保していくということについては、やはり先手を打つことが重要だと思っているので、とりわけ次世代や女性の活躍についてはこの5年間が瀬戸際と言うか重要な期間だと思っているので、ぜひ積極的な取組をお願いしたい。
- 1点のみ、フォローアップの際の要望をお伝えしたい。女性の活躍についての愛知県の課題は、20代から30代の女性の就業率が全国と比べて低かったり、非正規雇用が全国より多いというところかと思っているので、目指すべき姿の実現に向けた指標にある女性の就業率に全年齢を使うということについては了承するが、今後の検証をする際には、年齢別の女性の就業率や女性の非正規労働者率といったところを個別の指標として併せて検証していただければと思うので、お願いをしたい。

○内田座長

- 愛知県では不本意非正規労働者も結構多いのか。

○日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島委員

- 働いた人が辞めてしまって、一旦専業主婦でいるという率が多分愛知県が多いのではないか。そこを正社員としてずっと働き続けるとか、どんどんキャリアを積んでいきたいという若い方たちを増やしていくかないと、結果として女性の活躍には繋がらない。こうした非正規でいる方たちが、多分全国より愛知県が多いと思うので、そこを課題として見ていただき、若い女性の就業率を上げていくというところや、課題としてしっかり解消できているかというところに着目していただければと思う。

○内田座長

- 本県としても、正社員として働いていただける方が活躍できていないという状況であれば、重要な役割を担っていただくという方向性は重要かと思う。

- ・また、冒頭の人材確保が重要というご指摘は県としても重々承知していると思う。本県の方向性というかまちの魅力づくりについて、とどまつてもらうということが叶わなければUターンしてもらうため、本県の産業構造・職種といったところも含めて魅力になっていくと思うので、ビジョンの推進をお願いしたいと思う。

○名古屋商工会議所 坂東様（内田委員代理）

- ・委員の皆さんと言ったことを綺麗にまとめていただいたと思っており、敬意を表したいと思う。
- ・ただこういったものは作った瞬間に陳腐化してしまって、古くなってしまうという宿命があるので、そこを今後どうやってフォローアップしていくのかというのが最大の課題かと思う。また、スピード感、時間軸という点で言うと、最大の要素はやはり人口減少であり、今まで経験したことないスピードで日本人が減っているということと、またそれを補完しなければいけないということから、AIを含むDXをどうやって入れていくかということ、この2つの課題が結構大きいのかと思う。
- ・その課題感あるいは現状分析も書いていただいているが、非常に分かりやすくなっていると思うが、まず、2つ目のDX・AIの話から申し上げると、中小企業でもAI含めたDXをかなり意識してやっている企業もいる。ただ、実際AIをある程度使っているは2割ぐらいと言われている。今、AIのレベルは日進月歩で進んでおり、1ヶ月経つとどんどん変わっているぐらいの様子で、もう一般的な人間のレベルの色んな数値はほぼ超えてきていると言われている。昨日、ChatGPTに5.2というバージョンが出た。これはもう完全に専門家レベルの知能を持っている。ビジョンの8ページにAIが人を代替するという記載があるが既に人間を超えてる。これを作り出してから半年ぐらい経っていると思うが、AIの方がスピード感が早く、その間に、もうどうやって使いこなすかというレベルになってきている。半年前にはできなかった、動画を見させてAIが音声で回答するということも普通にできるようになってきている。半年見てないともうレベルが全然分らないというぐらいのスピード感になってきているということである。それをうまく活用している中小企業も実はあり、活用出来ているところと出来ていないところでのすごい差がどんどん開くのかなと思う。
- ・我々、中小企業の支援機関としても、なかなかそれをキャッチアップできる職員は少なく、お恥ずかしい話だが、経営指導をやっていると言いながらもなかなか勉強が追いついてかないレベルかなと思っている。多分愛知県の職員の方も、このレベルについている方というのはそこまではいないのかなと思う。官民挙げてキャッチアップしながら使い続けないと、なかなかAIについて理解ができないという部分があるので、そこは我々も含めて、地域全体でやっていかなくてはいけないのかなと思う。
- ・人口減少について申し上げると、他県で言うとやはり北と南に行けば行くほど、県庁所在地の都市でも、人口減少が著しく、まちづくりだと産業を支える人材がどんどんなくなっている。名古屋でも気を抜くといずれそうなってしまうのかなという危機感があり、若者が流出しているという現状もある。そういうことから、12月2日にNAGOYA

都心会議という会議を立ち上げた。名古屋の主要な企業5社と名古屋商工会議所で設立をしたが、やはり町の都心の魅力を高めて、まちづくりをきちんとやっていくということと、新しい産業や本社機能を持ってくるというようなことを継続的にやっていかないと、名古屋が3大都市圏だからとあぐらをかいていると、いずれ他の都市に負けてしまうのではないかという危機感からそういう活動をしている。

- ・まちづくりとこの経済産業というのがなかなか結びつかない面はあるかもしれないが、我々、民間としても、そういう意識でやっているので、愛知県でもその辺りにご配慮いただきながら、経済を回していくため一緒になってやっていただければと思う。

○内田座長

- ・AIの活用や活用できる人材が重要であるということに関して、ビジョンの8ページのAIに関する懸念がもう既に現実になってきている。スピード感がかなり速いという状況の中で、やはりAIの活用だとかそういった人材の育成も非常に重要な視点かと思う。
- ・人口減少に関して、NAGOYA都心会議の発足ということがあったが、確かに経済という分野からもう少し広い概念になるが、都心の魅力・まちづくりの魅力、ひいては人の魅力といった辺りが若者を東京に引きつける非常に重要な要素だと思うので、最終的にどういった本県の姿にしていくかということを意識しながらの各部局の施策展開が重要なってくるのかなと思う。

○岡崎女子大学 林委員

- ・他の委員もおっしゃったように、非常に良くできたビジョンだと私自身も思っている。次々にバージョンアップしていただいているが、私ども委員の意見・指摘等々と、それ以外の各界の専門家の方々のご意見も聞いていただいているようで、そういうものを縦横に張り巡らせていただいて、今日のこのビジョンになったのかなと思っている。
- ・私から申し上げることはあまりないが、こんな取り組み方・使い方もあるのかなという1つのアイディアを申し上げたい。今の高校生が大学選びをする時に、授業の中でこの大学はどういう大学なんだろうだということを、様々なデータ・資料を用いて自分にぴったりとくる大学を選ぶということをやっているということを聞いている。高校でそういう探究の時間があり、愛知県内の高校生自身が、自分が暮らしている愛知県ってどういうところなんだろうということを探究するチャンスがあってもいいのではないかと思った。このビジョンを探究という視点で見てみると、データもたくさんあり、提言もとてもアクティブであったり、それから今日的であったりというところがあるので、高校生に、自分は今まで知らなかったけど愛知県ってこんなに魅力があるんだというような気づきをたくさんしていただけるのではないかということを思った。
- ・その気づきの根幹として期待する目指すべき姿の中においては、経済的な「豊かさ」を享受し続けられる地域という書きぶりで、愛知県を個性づけていると思う。以前にも申し上げたが、ここのミソと言うか私が非常に注目したのは、この豊かさにかぎ括弧がつ

いていることである。ビジョンのタイトルにもある多様性をこのかぎ括弧の中に含んでいるのではないかということを思った。

- ・これから、多様で何が正解か分からない世の中を生きていく時に、高校生一人一人が自分の良さを知り、愛知県の良さも知り、その中で経済的にも豊かになっていくことができるんだという実感を持ってくれればと思うが、やはり人材は頭数だけではなく、幸福感とか豊かさを実感できて働き続けられる人材が大事ではないかなと思ったところである。そのために、このビジョンを1つの教材として使っていただくチャンスがあるとともに良いなと思った。
- ・それから、先ほどの座長と中島委員とのやりとりの中で、女性は意に沿わない中途退職をするのかというようなことがあった。世帯の稼ぎ高というと愛知県は高いが、専業主婦率も高いということがある。これはどういうことが発生するかというと、女性の隠れ貧困という言い方をするが、世帯はリッチであるが女性自身が使えるお金は少なく、自分の老後も含めてなかなか未来に展望が持ちにくい女性が多いのではないかということである。女性の中途退職というのは、非常に複雑な要素がある上、その結果もなかなか厳しいものを来たすというところはあるのかなと思った。これはビジョンとあまり関係ないが、やはり退職とかパートでの働き方といったものが、数値で示す以上になかなか複雑な女性の生きざまを表しているのではないかというのが私の感想である。

○内田座長

- ・最後の女性の隠れ貧困というワードに関して、東北とか南九州から考えると愛知県はかなり豊かな地域なんだと思うが、たくさんの優秀な女性が活躍できているかというと、やはり愛知県はそこで口スがあるのかなと思うので、そこに関しては、今後強力に推進していく必要があるのかなと思う。
- ・それから豊かさに関して、ビジョンを高校の授業の探求の時間でも利用したらどうかという話があったが、行きたい大学、自分に合う大学が分かっても、さすがに仕送りまでして東京の大学に行くというのは今の時代なかなか難しくなってきており、大学まで愛知県にいて、その先東京に行くというような人はたくさんいるので、そういう意味で、本県の豊かさ・将来的なビジョンなどを高校の時点できちんと認識していただくというのは非常に重要な取組なのかなと思った。
- ・実際、東京に行くと言っても、住宅ローンを抱えてということになると都内に住める若者は限られ、将来、購入するとしても、東京と言いながら実際は神奈川・埼玉・千葉であったりするので、ライフサイクルの中でのそういう豊かさというか、どういう価値観で生きていくのかということについて、例えば高校生にも認識していただく意味はあるのかなと思った。

○内田座長

- ・一通りご意見を頂戴したが、急遽ご欠席の委員を除き、今日ご欠席の委員からは事前に意見を聴取していただいているので、事務局から紹介をお願いしたい。

○事務局

- ・ご欠席の委員の意見の紹介の前に、先ほどの質問についてご回答させていただく。
- ・愛知県経営者協会の岩原委員からあった、22ページの中小企業の従業員比率について、愛知県が72%であるが、岐阜県や三重県はどうかという点であるが、2021年の経済センサスを調べてみると、岐阜県は84%、三重県は88%であるので、愛知県より高い比率になっている。全国は7割程度になっている。
- ・2点目として、座長から、グラフのビジュアルについて検討したほうが良いということであったので、時間の都合上こうしたビジュアルになっているが、また検討させていただく。
- ・3点目として、22ページの関係で、座長から付加価値額に占める中小企業の割合の箇所で、全国は50%未満だというような話もあったが、確認したところ全国は56%であるようで、愛知県はそれよりは少し多いというところである。
- ・最後に4点目であるが、愛知県中小企業団体中央会の佐々木委員から、分かりやすいものをまとめたほうが良いということであったが、資料5にも記載しているが、今後もう少し分かりやすいスライドを作っていくみたいと思っているので、そこでまとめていきたいと思っている。
- ・次に、欠席された和歌山大学の大澤委員と愛知県職業能力開発協会の加藤委員のご意見を簡単に紹介させていただく。
- ・大沢委員からは、観光が専門であるため、観光についての意見をいただいている。
- ・観光は経済社会が今後進むべき方向を示している産業であり、観光を推進していく上で既存産業との掛け算で進めていくのが良いのではないか、例えば、モノづくり×観光、愛知の歴史×観光、環境×観光といったような視点で取り組んでいくはどうかというご意見をいただいている。
- ・また、今後、ビジョンを推進していく上で意識していただきたいのは、県として何をすべきかというところを考え、市町村ほど現場に近くはないため、市町村との関係を意識して推進していくべきだというご意見をいただいている。さらに、掛け算の観光の実現していくためには府内の連携も不可欠というご意見もいただいている。
- ・愛知県職業能力開発協会の加藤委員からは、少子高齢化や若年層の技能職離れという危機感からモノづくり人材の確保・育成は非常に喫緊の課題だということと、全国一の技能士数の指標で成果を見る化しつつ、技能継承支援などの技能尊重社会の機運づくりや働きやすい環境整備を進めていただくことを期待するというご意見をいただいた。
- ・また、技能五輪の全国大会・国際大会といった機会をとらえて、子供たちにモノづくりの楽しさを伝える機会やこうした仕掛けを拡充していって欲しいということと、最後に、外国人を技能士として積極的に育成・確保するため、外国人に暮らしやすい環境づくりにも引き続き取り組んでいただきたいというご意見をいただいた。

○内田座長

- ・外国人労働者も非常に重要性が高くなっているので、こうしたご指摘ももっともかと思う。
- ・最後に、3局長から、今日の各委員のご発言に対する受け止めも含めてコメントを頂戴したい。

○金山労働局長

- ・委員の皆様方には4回に渡る委員会において、貴重なご意見・ご提言を賜り、厚く御礼申し上げる。
- ・労働行政の取り組みとしては、やはり産業人材の確保・育成、特に中小企業などの人手不足への対応ということが今後5年間も最大の課題だと認識している。
- ・ビジョンに位置付けた取組の方向性をしっかりと具体化して参りたい。特に力を入れていきたいこととして、前回の委員会で、外国人材の確保について本県は今年度から力を入れ始めたということを申し上げた。
- ・それから、モノづくり人材・技能人材の確保・育成ということで、技能五輪全国大会については来年度・再来年度も実施するので5年連続であり、2028年には国際大会があるという中で、こういった貴重な機会を活用して、子どもや若い世代への意識醸成を図っていきたいということも前回申し上げたとおりである。
- ・これに付け加えさせていただくと、先ほど名古屋商工会議所の坂東様からもデジタルのことを言っていただいたが、賃上げの流れが定着してきており、中小企業の生産性向上、稼ぐ力の強化というのは喫緊の課題である。そのためには、やはり生産性向上に極めて効果が高いデジタル化というのが鍵であり、労働行政としてはデジタル人材の育成に一層力を入れていきたいと考えている。県議会からも、中小企業に身近な支援人材、今日出席いただいている経済団体の指導員の方や、行政書士などの士業の方といった方々のデジタルスキルを上げていき、中小企業を指導していただくと、非常に広がりが出てくるのではないかということであった。先ほど、生成AIの活用も企業で差があるという話もあったが、やはりなかなか活用できていない企業も多いので、そこに入っていくような取組はできないかということで施策を検討しているというところである。
- ・中小企業の人手不足対策で言うと、県内はもちろん、県外からもUIJターンを含めて人材を確保していきたいが、採用活動を強化していく中で企業が自らのセールスポイントを上手にアピールできるかということが重要であり、また課題でもあることがあるので、そうしたセールスの内容や手法などについて、行政として手助けできるようなことはないかということで具体策を検討したいと考えている。
- ・こうした人材関係の取組を総合的に展開し、今後も愛知の産業の発展を人づくりの面から支えてまいりと考えているので、引き続きご理解・ご協力をお願いしたい。

○多田観光コンベンション局長

- ・まず、ビジョンの策定に向け、ご尽力いただいた委員始め関係者の皆様に、観光コンベンション局としても御礼を申し上げたい。

- ・観光コンベンション局では、あいち経済労働ビジョンを基に、観光分野の基本計画として「あいち観光戦略 2024 - 2026」を作成しており、現行の計画が2026年度で終了するので、次の計画策定に向けた準備を開始したところである。ビジョンの策定にあたって委員の皆様から頂戴した様々なご意見や、今回まさに策定されるこのあいち経済労働ビジョンを踏まえ、次期観光戦略の策定に向けた議論・検討を深めてまいりたいと考えている。
- ・本県の観光の状況として、現行のあいち経済労働ビジョンにも盛り込まれている観光消費額や観光消費額単価といった指標は、目標を既に達成するなど、これまでの取組については一定の成果はあったのではないかと考えている。
- ・特にインバウンドについては、全国的に増えているということもあるが、昨年の愛知県の外国人延べ宿泊者数は391万人泊であったのが、今年の1月から9月までの時点で既に約363万人泊という状況になっており、過去最高を上回るペースで推移してきているところではある。
- ・ただ一方で、内田座長からもお話しがあったように、やはり東京や大阪などの地域と比べるとまだまだインバウンド需要の取り込み、成長の余地はあると考えている。特に持続可能な観光の発展を図っていく上では、特定の国・地域だけではなく、多様な国・地域からのインバウンド誘客に加え、消費額ベースでは国内の旅行市場はまだ国内旅行が多くを占めているというところもあるので、国内誘客をしっかり意識して、コンテンツの磨き上げ、プロモーション、受入環境の整備、今日は人手不足や経営の効率化といった話もあったが、現場を支えている地域の関係者の皆様の話もよくお伺いしながら、そういうことを県としてしっかり取り組んでいく必要があると考えているところである。
- ・来年、大河ドラマの「豊臣兄弟！」やアジア・アジアパラ競技大会があり、再来年はアジア開発銀行の年次総会が愛知で行われるが、こうした機会も生かしながら、中部圏のゲートウェイとしての意識をしっかり持ち、府内の関係部局とも連携し、国内外からのさらなる誘客を図って参りたいと思うので、今後ともご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願いしたい。

○犬塚経済産業局長

- ・改めて、内田委員長始め委員の皆様には、ここまで様々なご意見いただき、御礼を申し上げる。第1回の策定委員会は昨年の11月であり、以降4回開催してきたが、2年度にわたり、お忙しい中、委員としてご意見を賜り、改めて御礼申し上げる。
- ・今日いただいた意見も踏まえ2点お話をさせていただく。
- ・1点目は、変化の速さについていくつかご指摘をいただいた。過去のビジョンの際に、中間で一度見直したバージョンを出したことがあった。こうしたことの参考にしながら、5年間の間でどのような変化があるかということも踏まえ、どうしていくか検討させていただきたいと思う。
- ・変化という点で申し上げると、現行ビジョンは5年前に作成したが、まさにコロナの真

つ最中の2020年がスタートラインであった。そのため、その時のビジョンはコロナ危機を乗り越え、頑張っていくというようなことが1丁目1番地で打ち出してあったが、5年が経ち、その間に様々な変化があった。そうしたことを踏まえて、今回はイノベーションと多様性というキーワードを使わせていただいている。

- ・変化の中の1つとして、やはりスタートアップの存在感が非常に大きくなってきたということがある。そのため、今回、政策の柱の1番目にはスタートアップを持ってきているということである。
- ・また、中堅企業が成長の柱だというような議論もあったので、そこも成長の主役ではないかというような位置付けをさせていただいた。
- ・もう1つの点は、多様性というキーワードを使ったことである。先ほど林委員からも少し触れていただいたが、この多様性という言葉に我々として万感の思いが入っている。これは、もちろん主体や人材といった意味での多様性もあるとともに、様々な政策を進める上では色々な方と関わりながら進めていかないと、いよいよ色々な課題には対処していくのではないかということをこの5年間で強く感じたことがある。例えば、水素・アンモニアやイノベーション、労働力であったり、観光の世界でもインバウンドという新たな多様性の時代が来たというようなことがあり、色々な思いがあつて多様性という言葉を使わせていただいている。
- ・今後は、今月中にビジョンを策定し、発表をさせていただくが、来年度、様々な施策を進める上では、今回の策定委員会の委員の皆様と引き続き連携させていただきながら進めていかないと、ビジョンの進捗は図れないと思うので、引き続きのご協力、ご指導、ご鞭撻をお願いしたい。

○内田座長

- ・金山局長からは、外国人労働者も含めた人材確保の重要性、特に中小企業の生産性向上に向けたデジタル人材の育成というお話をいただいた。
- ・多田局長からは、外国人延べ宿泊者数が過去最高のペースで進んでおり、順調であるというお話であった。一方で、インバウンドの国・地域の分散に向けて、おそらく本県は中国への依存度が少し高めだと思うので、それを下げていくという方向性かと思う。
- ・犬塚局長から、イノベーションと多様性ということ、変化のスピードに対応できるような方向性というところをお話しいただいた。
- ・3局長ともそれぞれ的確に方向性を把握しているので、我々委員としても、安心して今後の県の施策展開を見守りたいと思う。
- ・最後に、先ほどのTechGALA Japanのところでの追記など、少し修正箇所があったので、この辺りに関しては座長の私にご一任いただき、責任を持って事務局と調整させていただきたいと思う。